

答申の条件達成に取り組む

本紙2面でもご紹介しましたとおり、市立柏病院については公立病院の専門家等の学識経験者・病院経営者・小児科の医師等の医療関係者などで構成された柏市健康福祉審議会市立病院事業検討専門分科会において「市立柏病院のあり方」をご審議いただき、同審議会から答申をいただきました。答申内容のうち、市立柏病院に期待される役割については平成24年度に柏市が提案した柏市立柏病院中期構想とおおむね同じ内容でした。病院の施設については、建て替えは必要だがその前に現状の病院が抱える2つの課題を克服することが必要であるとの提言をいただきました。

ひとつは、病床利用率を上げることです。市立柏病院の直近2年の病床利用率は70パーセント程度です。近隣病院の病床利用率はおよそ80～90パーセントと推定されるため、70パーセント程度は低い数字です。この数字は病院の経営収支に大きな影響を与えます。特に建て替え後は費用構造が上昇するので、このままでは建て替え後に、多額の税金投入が避けられないという懸念があります。そのような意味で、まずは病院の経営基盤を固めることが、建て替えの前に必要なことであるとされました。

もうひとつは、建て替え前に現状の病院で小児二次医療の入院体制を構築することです。市立柏病院に期待される役割として小児二次救急の対応が必要であるとされましたが、現状の病院では小児外来だけで小児二次救急の入院体制はありません。平成27年度の柏市の小児の救急車による搬送件数は1,558件あり、慈恵柏病院で約40パーセント、その他市内病院で約40パーセント、市外病院で約20パーセントを受け入れています。その中で市立柏病院の受け入れ状況は全体の約4パーセントであるため、平成29年度と平成30年度で小児入院体制を構築し、小児二次救急の受け入れ件数の向上を図ってまいります。

今回の答申で示された建て替え条件の達成に向け、病院運営者である柏市医療公社と協力して頑張っています。

